

第 15 回多摩市総合計画審議会 議事要点録

1. 日時：平成 22 年 1 月 14 日(木曜)午後 6 時 30 分～9 時 30 分
2. 場所：市役所 302 会議室
3. 出席委員：12 名
4. 欠席委員：今川委員 兼坂委員 岡田委員

6. 議題

(1) 第 14 回審議会議事要点録等の確認

事務局 第 14 回審議会の議事要点録について事前に各委員に確認頂き、修正等が無かったため、本会議で承認後、行政資料室及び公式ホームページで公開する。

会長 特に追加修正はないため、第 14 回議事要点録は了承とする。

(2) 第五次多摩市総合計画 基本構想素案について

会長 「第五次多摩市総合計画基本構想素案」について、起草委員会で作成した基本構想の素案の案に基づいて議論を進めたい。総合計画審議会で議論した基本構想の素案を多摩市長に提出することになる。この素案をもとに「第五次多摩市総合計画基本構想案」が作成されることになるのであらかじめご了承ください。

将来都市像と想定人口については後ほど議論したい。

1 ページ目の「総合計画策定の意義」について意見はあるか。無ければ次の総合計画の構成に議論を移したい。

「総合計画の構成」について意見はあるか。

委員 基本計画については 4 年ごとに見直しとなっているのは市長の任期と関係するのかわ確認したい。

事務局 ご質問のとおりである。

会長 (1)基本構想の期間について、「期間中の」以下の文章は期間の 20 年間を見直すわけではなく、基本構想を見直すのであるから、期間のところを書くのではなく、概要に書いたほうがわかりやすくなるのではないか。

次に 2 ページの社会的背景に議論を移したい。「(1)人口減少・超高齢社会の到来」について意見はあるか。

委員 「特に留意すべきものとして 3 点を挙げます」という表現の主語がはっきりしないのでわかりづらい。

会長 「3 点があります」という表現ではどうか。

委員 「3 点があります」とすると絶対的な意味になって、表現として強すぎるのではないか。

委員 「次の 3 点が考えられます」という表現ではどうか。

会長 2 ページの 8 行目の「下記の 3 点を挙げます。」は「次の 3 点が重要と考えます。」という表現に訂正する。

会長 「(1)人口減少・超高齢社会の到来」の文章の構成についてであるが、後段「多摩市では、合計特殊出生率」以下の文については、後半の「今後は国を上回るスピードで高齢化が進むことが予測されています。」を前に持ってきて「多摩市では高齢化が国

を上回るスピードで進むことが予測されていますが、合計特殊出生率は平成 20 年まで連続して増加傾向にあり、健康寿命も高くなっている」としたほうがつながりがよいのではないかと。

委員 この文章については、前半の「合計特殊出生率は」の部分で事実を述べ、「今後は国を上回る」以下の部分で予測を述べている構成になっているので、案のとおりで良いのではないかと。

委員 合計特殊出生率が 5 年連続で増加傾向にあるのは、若年層の人口が減っているのが結果として合計特殊出生率が増加しているのかどうかを確認したい。

事務局 出生数自体も増えているので、母親の数に対して生まれる数が増えていると理解している。具体的な数字については、再度確認して正確な数字を次回お伝えしたい。

会長 多摩市の合計特殊出生率は全国の数値を大きく下回っている。

委員 人口減少というタイトルであるのにも関わらず、合計特殊出生率が増加傾向にあるとする内容に、読み手は矛盾を感じるのではないかと。

委員 合計特殊出生率のくだりについては、前段で国の傾向について「若干の上昇は見られたものの」と述べているので、国の傾向に比べ多摩市の状況はどうなっているかという構成になっていて、特段多摩市の合計特殊出生率が増加傾向にあるという文脈にはなっていないと思う。

委員 「増加傾向にあるが、全国平均を下回っている」と付け加えたほうがわかりやすいのではないかと。

委員 50 代、60 代の高齢者予備軍が人口構成として多いため、多摩市は全国を上回る速度で高齢化が進むということを述べているのではないかと。

会長 人口が減少するという事実と、高齢化が進むことと、合計特殊出生率が増加しているということを並列で述べるのは多少違和感があるかもしれないが、読んでみるとそれほど不自然ではない。

委員 前段の国の状況を述べている部分では、具体的なデータが示されているが、多摩市の具体的なデータが書き込まれていないので、イメージが捕らえにくい。

会長 多摩市では比較的に子どもが生まれている。高齢化が進んでも比較的健康な高齢者が多く、「今後とも安心して」という文章につながっていく流れになっているので、おおむね案のとおりでよいのではないかと。

委員 この部分に多摩市の平成 20 年の合計特殊出生率 1.19 という具体的なデータを入れればよいのではないかと。多摩市の合計特殊出生率は増えているものの、全国の 1.37 を大幅に下回っている、という流れにとすれば人口減少というタイトルとつながるのではないかと。

会長 合計特殊出生率については「合計特殊出生率は 1.19 であるが過去 5 年間増加傾向にある」という表現ではいかがかと。

委員 人口維持に必要な 2.08 を大幅に下回っている。合計特殊出生率が 1.19 であると 30 年、40 年後には人口が半分になってしまうことになる。

会長 合計特殊出生率の部分の文章については、「多摩市では、合計特殊出生率が 1.19 であるが過去 5 年増加傾向にある」と修正することとする。

委員 「多摩市では、合計特殊出生率が 1.12 で過去 5 年増加傾向にあるものの未だ人口維持に必要な 2.08 を下回っている。」としたほうが良いのではないかと。

- 会長 合計特殊出生率を2.08にするのはかなり困難であるので「低いけれども増加傾向にある」としたほうが良い。人口が減っていくということを強調しすぎないほうが良い。
- 委員 悲観的なものではなく、合計特殊出生率は全国の水準を下回っているものの増加傾向にあることを強調したほうがよいと思う。
- 会長 この部分の表現については、人口減というよりは、出生率が増加傾向にあることを強調していくこととする。
- 会長 次に「(2)環境問題の深刻化と持続可能な社会への展開」に議論を移したい。
- 委員 「ライフスタイルの見直しを図り」という部分の主語は誰なのか。ライフスタイルは必要に応じて個人個人が見直していくものではないか。主語が市民であるのなら、市なり、審議会が「見直しを図る」としてしまってよいか疑問である。
- 会長 後段の「市民や業者、行政などのパートナーシップにより構築し、力強く後押ししていくこと」という部分は「市民や事業者、行政がそれぞれ自ら努力をする」という表現のほうが良いのではないか。
- 委員 「市民や業者、行政などのパートナーシップにより構築し、力強く推進していくこと」としてはどうか。
- 会長 「市民や業者、行政などのパートナーシップにより構築し、力強く推進することが求められています。」と訂正することとする。
- 会長 次に先ほど指摘のあった「ライフスタイルの見直しを図り」という表現について意見はあるか。
- 委員 ライフスタイルの具体的なイメージが無いので、違和感があるのではないか。あえてこの表現を入れなくても文章はつながるのではないか。多摩市として問題提起するのであれば、今後とも省資源・省エネルギーやリサイクルを基調とした仕組み・体制作りを進めていくということだけ述べれば十分ではないか。この仕組み・体制作りを進めた結果としてライフスタイルは変わらざるをえない。
- 会長 ライフスタイルについてはすでに見直しが進んできているが、今後はよりいっそう見直しを図っていくということになるのではないか。
- 委員 たとえば、具体的に「ごみゼロを目指して」と表現するとわかりやすいのではないか。
- 委員 「ごみゼロ」は具体的な施策なので、基本構想で入れるのはどうか。「身近な環境問題の一つである廃棄物対策は、」以下3行の文章は他に比べると詳細で、基本計画や施策で述べていくものなので削除してはどうか。基本構想はわかりやすいことも大事だが、あくまで基本計画が作りやすいものにしていくことが必要なのではないか。
- 委員 (1)については上段が国の現状、下段が多摩市の状況となっている。(2)もあわせて後段で多摩市の現状を述べるという構成になっている。廃棄物対策は市町村が主体なので、3Rなど具体的な取り組みを入れるかどうかは別としても、廃棄物対策は多摩市において重要な問題となっているという問題提起を後段で述べてはどうか。
- 会長 「身近な環境問題のひとつである」以下の文章を後段の多摩市の取り組みに入れることとし、文章の内容は前後のつながりを考えて、改めて検討することとする。
- 会長 後段の「市長を本部長とした多摩市環境政策推進本部」については市の内部の組織のことなので、ここで書かなくても良いのではないか。この部分は「多摩市環境審議会を設置し」とし、「市長を本部長とした多摩市環境政策推進本部」は削除しても良いのではないか。

「ライフスタイルの見直しを図る」については異論が無ければ、削除することとする。
次に(3)「地方分権から地域主権社会へ」に議論を移したい。

委員 「地方自治体は自らの」以下の文章で確認したいのだが、地方分権型社会という言葉と地域主権社会という言葉の意味がどう違うのか確認したい。

会長 「地域主権社会への移行が求められている」となっているが、地方分権型社会から地域主権社会へということではない。言葉の意味というより考え方を整理しなくては行けないのではないか。地域主権社会への移行が求められているのではなく、地方自治体自らの判断と責任において行政を運営していくこと、自立した行政運営の取り組みが求められているのではないか。よって、この部分は「地方自治体は自らの判断と責任において行政を運営していく地方分権型社会・自立した行政運営の取り組みが求められている」と表現したら良いのではないか。

委員 (3)1行目の「地方政府の確立」が地域主権社会を意味するのか。短い文章の中で「地方政府」という言葉があったり、「地方分権型社会」という言葉があったり、「地域主権社会」という言葉があったり、いろいろな表現が出てきているがそれぞれが何を意味しているかがこの文章からは読み取れない。

事務局 (3)では、前半で今まで進められてきた地方分権改革推進委員会から出された第1次勧告から第4次勧告までの流れについて網羅して述べている。後半の「地域主権社会への移行」については新政権では、4次までの勧告を受けてさらに進んだ形として「地域主権」という言葉を使っているので、地方分権型社会と地域主権社会を使い分けている。

委員 地方分権が進んだ結果として地域主権へ移行するというのではなくて、地方分権から地域主権へ流れが変わるということを意図しているのか。

委員 一般的には地方分権社会が進んだ状態が地域主権とされている。

委員 昨年11月の閣議において、地域主権戦略会議の設置が決定されていて、公的にも「地域主権」という言葉が定着している。(3)では章を続けるのではなく、「地方分権型社会・自立した行政運営への取り組みが進められている。」で一度文章を終わらせ、「さらに今後は地域主権社会への移行が求められています。」としたらどうか。今後20年の流れを考えると、地域主権社会への移行ということは避けられないのではないか。事務局の説明のように、今までの動きを統括し、今後の流れを述べるという構成にすればわかりやすいのではないか。

会長 タイトルと文中の表現の「地域主権社会」は「地域主権」としたほうが良い。

委員 タイトルは「地方分権から地域主権へ」とし、文中の表現も地域主権社会と表現している部分は地域主権で統一したほうが良い。

会長 前段については「地域主権を目指して自らの判断と責任において行政を運営していく地方分権型社会・自立した行政運営の取り組みがもとめられている」としたらどうか。いずれにしても今後も地方分権は進んでいくと思われるが、どういった形で進んでいくのかが分からない状況で、どのように表現していくのが良いか。

委員 地域主権への移行が求められているというより、流れになっているというぐらいの表現にしたら良いのではないか。前段は社会的背景を述べているので、地域主権への流れ自体について述べるのは適当であると思う。後段「多摩市では」以降でこれまで続けてきた取り組みが今後も地域主権という形で展開していくという文章の構成にな

- ればよいのではないか。
- 会長 前段については、地方自治体の権限を強めるということを述べているのであって、後段「多摩市では」以降は市民がどのような活動をすべきかについて述べられているが、前段とかみ合っていない。この部分は「多摩市でも市民と一緒に自主的な行財政運営を行っていくことが求められています。」と続けるのが良いのではないか。「一方、施策や」以下は「独立した地域主権社会を実現するためには、施策や事業の成果を重視した行政運営、市民への積極的な情報公開や説明責任の徹底など行政運営における透明性の確保が必要です。」としたら良いのではないか。
- 会長 この部分については事務局に再考願いたい。次に第1章のまちづくりの基本理念の前文に議論を移したい。4ページのまちづくりの基本理念の前文について意見はあるか。
- 会長 自治基本条例の前文を引用していることについて疑問がある。自治基本条例を踏まえて基本理念を考えたことは述べないといけないと思うが、自治基本条例の前文を引用することには疑問を感じる。「まちづくりの基本理念は、多摩市のまちづくりを進めるうえで、もっとも基本となるものです。多摩市では自治の基本理念及び行動原則として多摩市自治基本条例を定めています。基本構想は多摩市自治基本条例の理念を踏まえてまちづくりの基本理念を定めます」という表現に変えて、前文は引用しなくても良いのではないか。前文は引用したほうが良いか。
- 委員 自治基本条例の前文が引用されていることでまちづくりの基本理念が自治基本条例を踏まえたものであるということがわかりやすくなっている。基本構想がどれだけの人の目に触れるかは分からないが、自治基本条例よりは多くの人に見てもらえるのではないか。そうしたときに前文が引用されていることは意義があると思う。
- 委員 この構成だと自治基本条例の理念にもとづいて定められているものだということがよく分かるので、案のまま引用しても良いと思う。
- 副会長 起草委員会では、自治基本条例の大きな理念と目指すまちの姿が描かれているとわかりやすいということで案のとおりとなった。いずれにしても、前文が多くの人々の目に触れることは意義があるのではないか。
- 会長 前文については案のまま引用するものとする。次にまちづくりの基本理念に議論を移したい。
- 委員 「自立的で健全な都市経営」となっていて、「自ら立つ」という「自立」を使っているが、第四次多摩市総合計画では「自律都市」となっており、「自ら律する」という「自律」を使っている。「自立」に変えた意図を確認したい。
- 事務局 「自ら律する自律」という表現は、費用対効果を図り健全財政を律するという使われ方をすることが多いと思う。「自ら立つ自立」は、都市の機能が自立することとともに、行財政運営も自立していくことを意図している。「律する自律」ということでは狭義になるので広義での「自ら立つ自立」を使い、都市として自立していくという認識を持っている。
- 会長 1の「新しい公共によるまちづくり」について、ここで述べられている「市民が主体的に関わるまちづくりを進めるとともに、市民、NPO、団体、企業、大学そして行政が対等な立場で協働・連携し、まちづくりにおけるそれぞれの役割と責任を明確にしながら、持てる力を発揮していく」というのは市民協働の説明になるのではないか。その延長上に「新しい公共」がある。そのため、1のタイトルは「市民協働と新しい

- 公共によるまちづくり」としたほうが良いのではないかと。「新しい公共」については、はっきりした定義は無いが、行政プロパーの公共と民間部門の間に生じているものである。固有の公共があって新しい公共もあるので、新しい公共だけで何かできるということでは無いのではないかと。新しい公共はあくまでも補完的なものなのではないかと。
- 副会長 市民協働は今や当たり前の概念である。今後は自治体だけ、NPOやボランティアだけ、企業だけというのではなく、それらが連携した「新しい公共」というひとつの仕組みがまちづくりにおいて大きな役割を果たしていく、市民協働を超えて、行政と市民、NPO、企業が連携してまちづくりを担っていくということを強調することもあって案のような文章となった。市民協働は大事なことであるので加えることについて異論は無い。
- 会長 「新しい公共」についての定義が誤っているのではないかと。案の文章は協働の説明になっているのではないかと。新しい公共によるまちづくりはもちろん必要であるが、新しい公共がまちづくりをするのではなく、まちづくりにおいて大きな役割を果たすということであり、新しい公共が主役になるということは考えづらいのではないかと。
- 委員 新しい公共をこの基本構想で新たに定義することとすればよいのではないかと。新しい公共とは市民、NPO、企業など行政を含んだ様々な主体が公共性をそれぞれが力を発揮できるところで分担し合っていく、今までの行政の属性である公共性だけでなく市民的な公共性や市場的な公共性を包含した形で、様々な主体が公共性を分担し合っていく社会であると定義することとしたと解釈すればよいのではないかと。
- 会長 鉤括弧つきの新しい公共という使い方ではなく、「多摩市では」という注釈をつけるべきではないかと。「新しい公共」という言葉は最近良く使われる言葉なので、一般的な理解とかけ離れた定義づけをしてしまうのはどうか。
- 事務局 多様な主体が公共性を分担し合うということでは、副会長と委員の指摘には接点があった。この接点に答えがあるのではないかと感じた。
- 委員 これから 20 年を考えると、多摩市のように都心に近いベッドタウンでなおかつ豊かな所得層が多い社会では、市場的な公共性が他の自治体に比べて大きなウエイトを占めていくことは間違いないことなので、そのあたりをイメージして書かれたのではないかと。行政と市民が役割を分担する、NPOが公共性を担っていくというだけではなく、マーケットメカニズムで動く企業が公共性を担っていかないと行政だけでは運営が難しくなっていくということなのではないかと。「新しい公共」という言葉に問題があるなら新しい表現を考えてはどうか。少なくとも市民と行政だけという市民協働とはステージが違ってきている。
- 会長 多様な担い手が責任を持つという内容だと思うが、「新しい公共」という言葉があまりにも流布されているので、言葉の定義としてどうか。強いて言えば新しい「新しい公共」ではある。
- 委員 3 ページ目の「今後は市民の選択と責任に基づく市民協働のまちづくりにより」とある文章の中にも、今のようなニュアンスや方向性を入れておいた方がよい。市民協働は 20 年先には古びた言葉になると思うので、ここに出てくるのは違和感があった。公共性の多様な主体による分担というのを、もしも直すのならば入れておいた方がよい。
- 会長 タイトルを「多様な担い手によるまちづくり」としたらどうか。
- 委員 2 行目にある「多様な主体」が新しい公共のイメージだと思う。タイトルは「多様な

主体」を掲げて、新しい公共とは多様な担い手によるものだというを文章の中で述べていけばよいのではないか。

会長 タイトルは多様な主体あるいは多様な担い手によるまちづくりとし、文章の中の「新しい公共」については鉤括弧をとるということでどうか。

副会長 責任ある主体ということでは「新しい公共」というほうがよいのではないか。

委員 「新たな公共」と言葉を変えてはどうか。

事務局 多摩市では、戦略プランの 67 ページですでに「新しい公共」をうたっており、この言葉が広まる前から使ってきたと考えている。

委員 戦略プランでの「新しい公共」のイメージは「信頼のネットワーク」によるまちづくりということになるか。

会長 新しい公共は今までの公共とは違って、いろいろな人が責任を分担するとあるが、行政に代わるものということになるかどうか。

委員 多摩市における新しい公共が戦略プランで述べている「信頼のネットワーク」によるまちづくりということであれば、基本理念でも説明しないとわかりづらい。

委員 新しい公共という言葉にこだわっているわけではないが、新しい公共は行政に代わるものであると読み取る人は少ないのではないか。今までのように行政に頼るばかりなのではなく、市民やNPO、企業などそれぞれの立場の人がそれぞれの役割を責任持って果たして行って、より良い暮らしやまちをみんなで支えていく 20 年後のまちの姿を分かりやすく、インパクトのある言葉で表現している。ここで改めて細かく定義するとしたら余計分かりづらくなるのではないか。

委員 自治基本条例の前文があって、「新しい公共によるまちづくり」という構成になっているので、自分たちでできることは責任を持って自分たちでやるのが大事だということがすんなりと読めた。

委員 新しい公共という言葉そのものに別な定義があって混乱するというのであれば、「新たな公共」が適当かは分からないが別の言葉に代えても良いのではないか。

委員 今までの議論の折衷案になるが、「新しい公共による」という表現を工夫したらどうか。新しい公共については戦略プランでも述べられているので市民にも理解されていると思う。「新しい公共による」を「新しい公共を支える」とか「新しい公共を活かした」などの補う言葉に代えたらどうか。

会長 この問題はまた議論するとして、次の議論に移りたい。

委員 5 ページの 3 行目以降の文章について修正の提案がある。主語が「市民や自然、生物が」となっていて自由意志を持たない自然と生物と自由意志を持つ市民とを一緒にしてしまっているが、述語の「各々の個性を發揮しながら」以下は市民だけについて書かれていて主語と述語が一致していない。市民と自然と生物を分け、主語は市民だけにして「ここに住む全ての市民が、自然や生物と共生し、各々の個性を發揮するとともに、互いを尊重し、支えあい、市民が主体となったまちづくりを進めるために」と修正することを提案する。

会長 提案のとおり修正することとする。

会長 6 ページの目指すまちの姿に議論を移したい。

委員 目指すまちの姿の概念図の「民間」とは何をさすのか。市民やNPO、団体は別になっているので民間企業を指していると理解してよいか。事業者や民間企業など表現に

ばらつきがあるので、統一して欲しい。

会長 「民間事業者」としてはどうか。

事務局 表現は統一させていただく。

会長 これまでの議論で「子ども」ということを強調していくということが確認されているが、目指すまちの概念図のなかで目指すまちの姿2が左上にあって、子育て・子育ての分野が下にあるのはどうか。

委員 これは、図の木の幹を左から順番に説明しているのもであって、下に位置づけているというわけではない。

委員 図を裏返すイメージで、右上から分野1から時計順に位置を修正すれば良いのではない。

会長 図については、視覚に訴えていくものなのでわかりやすいということも重要である。

会長 分野5が四角で囲われていないので読み飛ばしてしまう可能性がある。

委員 概念図については専門家の意見を聞いてみたらどうか。一見するだけでは図が読み取りにくい。

会長 1と2の位置を変えて、目指すまちの姿5を四角囲いにすれば問題ない。

委員 この図からは支えあっているイメージを持ちにくい。戦略プランの67ページのほうが支えあっているイメージに近い。

委員 デザインの観点から専門家にアドバイスをいただくのは良いと思う。大筋としてはこの図をもとに見せ方を工夫してみてもどうか。この図だと市民、NPO、団体と民間と行政がつながりあって支えているイメージが弱いのではないか。

委員 それぞれの担い手の図を三角で表現すると支えているというイメージとは離れてしまうようである。見せ方を工夫したい。

会長 図についても再度検討することとする。

委員 目指すまちの姿では「みんな」という言葉を使っているのは意味があるのか。第四次総合計画では市民とか誰もがとか私たちがという言葉を使っていた。

副会長 市民や誰もがなどいろいろ表現があるが「みんな」という言葉で統一したら読みやすいのではということでは起草委員会では統一した。

会長 「みんなで」という表現は分かりやすいので、異論が無ければ案のとおりとしたい。

会長 四角囲いの文章の「「目指すまちの姿」の関係は」以下の文章は、囲わずに、上段の「「目指すまちの姿」は」以下の文章とひとつの文章としてはどうか。

委員 四角で囲っているのははずすほうがよい。

委員 文章では6本の柱となっているが、図では4本の枝となっていて矛盾があるので整合性を取ったほうが良い。

会長 6ページの文章について、1行目は「「目指すまちの姿」は「将来都市像」が実現したときのまちの様子を具体的に示すものです。」とし、その次に四角囲いの中の「「目指すまちの姿」の関係は並列のものではなく、」以下の文章をつなげてはどうか。四角囲いの中は図の説明であるので、特に四角で囲って別に記述する必要は無いのではないかと。

会長 6ページについては文章、図とともに再度検討する。

会長 次に7ページの市民の暮らし「1. みんなで子育て・子育てを支え、子どもたちの明るい声がひびくまち」についてご意見はあるか。

委員 「子育て・子育て」を「子育てと子育て」としたほうが良いのではないかと。「子育て・

子育て」はひとつの言葉として使っているのだと思うが、子育てで区切って読んでしまう可能性がある。区切ってしまうと文章の意味が分からなくなる。もう一点は、目指すまちの姿を通して読んでみると、「～いるまち」という表現に違和感があったが、この文章は 20 年後の将来の多摩市を想定させる表現として「～している」という表現を使っているのだと理解した。だとすると、すべて「～しているまち」と統一したほうが良いのではないか。

会長 私は逆に「～しているまち」として、完成した後の姿を表現するのではなく、継続的な意味を持たせて、「～するまち」としたほうが良いと思う。

委員 この表現は 20 年後こうありたいというまちの姿という意味合いをこめて強調したと理解している。将来こうあるためにどう努力するかという経過を述べるのが一般的な構想であるが、市民の目線で将来像を映し出そうとしているのは画期的ではないか。

会長 画期的ではあるが、「～しているまち」とすると 20 年後はそうになっているが、今はちがうのかという議論になる。「みんなが明るく、安心して、いきいきと暮らしているまち」を例にしてみると、20 年後にそうになっているということではなく、すでにそういうまちを目指すまちづくりがされているわけであるから、「暮らすまち」としたほうが良い。

委員 解釈として、明日から続く 20 年の姿であると解釈すれば説得力のある表現ではないか。

委員 起草委員会では、目指すまちの姿は 20 年後の姿の断面図をイメージして表現した。今がなっているとかなっていないとかいうことではなく、今なっているのであれば 20 年間継続して、なっていないものがあれば努力して実現して行って、20 年後の姿を断面で切ったらこうなっているというものをまちの姿として表現している。

会長 20 年という期間を取れば確かにそうだが、20 年間のプロセスを取るか、20 年後の結果をとるか。

委員 プロセスについては基本計画に落としこんでいけば良い。基本構想では 20 年後のビジョンを設定していくということで、20 年後のまちの姿を断面的に述べていくのが構想の方向性であるという理解をもとに議論をした。

委員 行政はフローを考えるので、20 年間の仕事の積み重ねを述べがちになる。この表現は行政主導では出てこない。市民の目線で 20 年間の構想を考えたときに 20 年間のストックとして 20 年後の姿を断面で切って見せ、最終目標地点へのフローは次の基本計画で述べていくというストックとフローの棲み分けができていて良いのではないか。

副会長 目指すまちの姿ということで議論をしたので、20 年後こうなっていて欲しいという思いを素直に表現した。

委員 この議論をふまえると、すべて「～しているまち」に表現を統一したほうが良い。

会長 フローの概念の「～するまち」で統一するか、ストックの概念の「～しているまち」に統一するか。

委員 「みんな」という表現は統一されているので、まちについての表現についても統一したほうが良いのではないか。

会長 目指すまちの姿ということでは、20 年間のフローの概念も含む表現にしたほうが良いのではないか。

委員 20 年後の目標とプロセスをソフトに含んでいるので、無理に表現を統一しないで案の

- とおりでよいのではないか。
- 会長 プロセスを含むということであれば、「3. みんなで楽しみながら地域づくりを進めるまち」、「5. 人・自然・地球 みんなで環境を大切にすまち」としたほうが良いのではないか。とすると、分野2だけ「～しているまち」になるが。
- 事務局 6 ページで目指すまちの姿は将来都市像が実現したときのまちの状態を具体的に表すと定義しているので、「～しているまち」という表現になった。
- 会長 実現したときの姿だけでなく、将来像を実現するための方策なのではないか。とすれば、6 ページの表現も直したほうが良いのではないか。
- 委員 基本構想ではベクトルの大きさではなく進む方向を示すものであるから、20 年後の実現した姿を描いているのは妥当ではないか。
- 会長 分野2は原案のとおりとし、分野3と6は「～しているまち」を「～するまち」に変更する。
- 委員 7 ページ目の分野1の「みんなで子育て・子育てを支え、子どもたちの明るい声がひびくまち」について修正提案がある。「たおやか」という表現は言葉としてふさわしくない。「たおやか」の意味は新明解国語辞典によると「優美の意の雅語的表現」とある。この文章を起案した人は、人々がゆるやかにつながっているイメージで書かれていると思うが、本来の意味は「優美」であるので妥当ではないのではないか。また、ほかの部分の普通文で書かれていて、ここだけ雅語的表現になっているのもどうかと思う。「市民同士がたおやかにつながるまちの中で」を削除し前後をつないでいけばよいのではないかと思う。
- 委員 「たおやか」の表現については浮いているように感じる。
- 委員 起草委員でも議論はあったが、すでにある市の文章で使われている表現を引用しているということで「たおやか」という表現を使っている。
- 事務局 子育て・子育て子どもプランのメインタイトルなので行政側としては是非この表現を使いたいという思いがあるが、審議会としての意見をまとめていただければよい。
- 委員 最初に素案を読んだときに意味がわからずに、辞書を引いた。
- 会長 審議会の素案としては「たおやか」という表現は削除したい。
- 委員 下から3行目の「次代を担う子どもたちが確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和の取れた「生きる力」を身につけることができるよう」という文章はすんなりと読み込むことができなかった。
- 委員 この部分は「健やかな体をそなえていて、体の調和の取れた「生きる力」を身につけることができるよう」としてはどうか。
- 会長 健やかな体という表現に疑問がある。障がいを持つ人もいるので再考が必要ではないか。今時、「健全な体に健全な心が宿る」などということには言わない。
- 委員 学力が最初に来ているのはどうか。学校教育のことなのでこの順番になっていると思うが、心のほうが大事なのではないか。
- 委員 策定中の教育振興プランでは「健やかな体」という表現を使っている。教育振興プランと齟齬がないような形にしないとイケない。次回までに調べておくので、学力の件も合わせて次回再検討することとしていただきたい。
- 会長 主な分野は載せる必要があるか。
- 事務局 特に載せなくてはいけないということではない。分かりやすくということ、案の段

- 階では載せた。必要性については審議会で議論していただきたい。
- 会長 主な分野については掲載する必要はないのではないかと。
- 会長 「子育て・子育て」の表現で、「子育て」のところで一旦文章が途切れてしまうように読めるという点についてはどうか。「子育て・子育て」で一体の言葉として使っているので「子育てと子育て」としてしまうとニュアンスが違ってくるのではないかと。
- 委員 「みんなで子育て・子育て」の表現について提案があるのだが、「子育て・子育て」を文頭に持ってきて「子育て・子育てをみんなで支え」としてはどうか。
- 委員 「子育て・子育て」は多摩市ではすでに一体の言葉として使われている。
- 委員 主な分野については、読みにくいので削除して欲しい。
- 会長 分野2の「みんなが明るく、安心して、いきいきと暮らせるまち」に議論を移したい。
- 委員 地域住民という言葉があるが市民とは違う意味で使っているのか。
- 会長 この地域住民は市民としても良いのではないかと。
- 委員 他のところでも地域の誰もがなど、地域と市民が混在している。ここでは、身近な人が支えあっているというイメージで地域住民を使っているのではないかと。起草委員会ではあえて統一するという事ではなかった。
- 会長 地域を強調するときは地域住民とするなど、その場に適した表現を自然に使えばよい。表現を統一するという事ではないが、ここでは地域住民を市民と変更する。
- 委員 「共に生きていくことのできる」と「市民がともに支えあい」で「ともに」という表現が重なってしまっている。「地域住民とともに」を「市民」に変えたほうが良い。
- 委員 「健康で」という表現はどうか。全ての人が健康であるとは限らないのではないかと。障がいがあったり、病気であったとしても地域に根ざして生きていけるということで起草委員会では削除したような記憶がある。
- 委員 健康については後段で触れているので、この部分の「健康で」は削除しても良いのではないかと。
- 会長 「健康に関心を持つ」でよいか。関心を持つから一歩進んだ表現にして「健康の維持に努める」としてはどうか。
- 委員 「努める」という強い表現にしてしまうと管理されているイメージになるので妥当ではないのではないかと。あくまで健康管理は各個人の問題だと思う。
- 会長 分野3の「みんなで楽しみながら地域づくりを進めているまち」に議論を移したい。
- 委員 安全・安心を安心・安全と順番を変えたほうが良いのではないかと。
- 委員 「安全・安心」という表現は別のプランなどでも使われている表現なので、構想だけ表現を変えると混乱するのではないかと。あえて変更するならば、それ相当の理由が必要なのではないかと。
- 委員 読んだときに地域の誰もが思いやりと支えあいの心を持ち、だれもが平等で互いに尊重しあう地域社会が「安心」につながると思ったので、安心が先に来ているほうが分かりやすいのではという程度なのでこだわりがあるわけではない。
- 会長 議論の途中であるが、時間をかなり超過しているので、本日はここまでとする。